

福 議 委 号
令和 7 年 9 月 3 日

福島町議会議長 溝部 幸基 様

経済福祉常任委員会
委員長 佐藤 孝男



所管事務調査報告書の提出について

令和 7 年 6 月 19 日福島町議会定例会 6 月会議において決定した、休会中の所管事務調査を終えたので、会議条例第 148 条の規定により、下記のとおり報告する。

記

調査事件	3 アワビ陸上養殖事業の進捗状況について	4 ナマコ種苗放流事業について
調査期間	令和 7 年 8 月 2 2 日	
出席委員	委員長 佐藤 孝男 委員 平沼 昌平 委員 溝部 幸基	副委員長 小鹿 昭義 委員 平野 隆雄
委員外議員	議員 藤山 大 議員 熊野 茂夫	議員 木村 隆
出席説明員	町 長 鳴海 清春 産業課長 福原 貴之 産業課水産係長 尾崎 司宙	副町長 小鹿 一彦 産業課長補佐 中村 伸也
議会事務局員職	事務局長 鍋谷 浩行 主任 角谷 里紗	係 長 山下 貴義

[委員会意見]

調査事件 3 アワビ陸上養殖事業の進捗状況について（令和7年8月22日調査）

アワビ陸上養殖事業は、事業がスタートしてから8年目を迎えるが、ここ数年は種苗購入先における病気や林野火災等の発生により安定的な供給ができない課題もあり、決算収支の改善に至っていない状況にある。町は、より効率的な陸上養殖体制を構築するため、北日本水産のノウハウを最大限活用することでアワビの増産を目指し、事業の持続可能性と拡張性を高める取り組みを進めることとしており、この度、陸上養殖事業の現状と進捗状況について資料が示されたことから、内容を調査したので、調査結果を次のとおり報告する。

【論点とした調査項目・意見】

町より示されたアワビ陸上養殖事業の進捗状況と今後の方向性については一定の理解をしたが、次の事項について検討されたい。

1 アワビの生産状況について

現在生産しているアワビ種苗は、北海道栽培漁業振興公社と北日本水産（株）から購入した物だが、資料では合算した数値となっている。2つの購入先で種苗のサイズや単価、斃死率等も異なっていることから、生産数等のデータは購入先別に分けて管理するべきと思慮するので検討されたい。

2 アワビの販売状況について

アワビの生育状況によって1kg当たりの個数が変動することは理解するが、サイズや価格が安定していないと購入者の信頼を得られないことから、販売方法に一定の基準を設ける必要があると思慮するので検討されたい。

3 アワビ陸上養殖事業の今後の方向性について

アワビ陸上養殖事業については、種苗購入先である北日本水産（株）の生産方式の効率性が高いことから、これまでの生産方式の見直しを検討するため、同社に3年間の調査委託をしているが、町がアワビ陸上養殖事業を開始して8年が経過し今の生産方式では収益の改善は見込めないことはこれまでのデータ（決算状況等）から明白であり、調査委託期間に拘ることなく、できる限り早い段階で判断し今後の方向性を示すことが望ましいと思慮する。

北日本水産（株）は生産だけでなく流通・販売についてもノウハウを有していることから、種苗購入先としてだけではなく、養殖施設の管理も含めたアワビ陸上養殖事業の町指定管理先として企業誘致に向けた働きかけも必要と思慮するので検討されたい。

生産方式の見直し検討を進めるにあたっては、事業の立ち上げ当初から協力して頂いた水産アドバイザーや関係者等の理解を得るよう、しっかり対応するべきと思慮する。

[委員会意見]

調査事件 4 ナマコ種苗放流事業について（令和 7 年 8 月 22 日調査）

町内の前浜漁業は、養殖コンブやキタムラサキウニの価格が高値で推移するなど、近年は安定しているとみられるが、漁組では、今後、海水温の上昇などにより漁獲変動が懸念されることから、新たな前浜資源として、高単価が期待されるナマコの漁獲向上により漁業経営の安定と所得向上を図りたいとの強い要望があり、町では、漁港の静穏域を活用したナマコの育成調査を計画しており、この度、ナマコ種苗放流事業の概要等について資料が示されたことから、内容を調査したので、調査結果を次のとおり報告する。

【論点とした調査項目・意見】

町より示されたナマコ種苗放流事業の内容については一定の理解をしたが、次の事項について検討されたい。

1 ナマコ種苗放流事業について

ナマコの市場については、資源の枯渇等により高値で推移する現況にあるが、水産物輸出の国際的な障害も懸念されることから、取引状況等を充分注視し対応する必要があると思慮する。

ナマコ種苗放流事業は以前から白符漁港で実施しており、その際は稚ナマコ育成礁を使用しなくても高い生残率を示すデータが出ていたと思うが、今回は 30mm 以下の種苗を「ナマコのゆりかご」を使用し食害を防ぐ方法で試験することから、より高い生残率を示す結果が期待される。

資料において、新たな事業に使用するナマコ種苗を公社から購入する説明の際に、今まで地元で採苗していたと認識していた点について、現在は松前町から種苗を入れているとの説明があり、その事について町長も認識していなかった点を憂慮する。漁組の業務内容について、全て把握する必要は無いが、これまでも漁組の施設整備・養殖事業の推進等には町が積極的に協力し、特にナマコ種苗の採苗については、議会としても所管調査（視察・研修）してきた経緯もあることから、漁組とは出来る限り情報を共有し、適宜、議会へも周知されることを心掛けたい。